

2019年度  
授業計画表  
(シラバス)

四国歯科衛生士学院専門学校

分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
基礎分野	生活行動科学	2	30	90分 × 20コマ	講義・演習
開講年度および時期	担当教員および実務経験	評価方法		教科書及び参考資料他	
2019年度  前期・後期	中條 信義	1) 論述式筆記試験(100点)		プリント配布 参考資料「歯科衛生士のためのヘルスカウンセリング」宗像恒次(クインテッセンス出版 2006年)	
	歯科医師としての臨床経験、臨床心理士としてのさまざまな症例に対応している教員が、患者と自分を理解し、よりよい人間関係を築くコミュニケーション能力の取得を指導する科目である。				

一般目標	生活の中における人間の行動を科学的に捉えることができるようになるために、行動科学や臨床心理学の意義を学ぶ。また、歯科衛生士として、患者と自分を理解するために、よりよい人間関係を築けるコミュニケーション能力を身につける。
------	---

到達目標	①患者中心の歯科医療を実践するための対人関係の形成、会話態度の知識を修得する。 ②患者中心の歯科医療を実践するための対人関係の形成、会話態度の技法修得する。 ③患者への接し方を学ぶ。
------	---

### 授業計画

回	単元	形態	内容	備考
1	生活行動科学について	講義	行動科学や臨床心理学を基礎にした本講義全体について	
2		講義	バウムテストとその解説	心理検査(投影法)とストレス測定
3	行動科学に基づくヘルスカウンセリング	講義	指導や教育でなく自己決定力による口腔ケアを導くためのカウンセリング	
4		講義	自己理解のためのTEGとその解説 不安傾向尺度と抑うつ尺度により心理査定	YGテスト
5	ヘルスカウンセリングのものの見方	講義	こころのストレスの捕らえ方と方法	
6		講義	DVD鑑賞、ストレス研究の最前線	
7	ヘルスカウンセリング法とは	講義	焦点をあてて話しについていき、感情を理解して構造化連想法をつかう方法とは	
8		講義	コラージュ療法(雑誌や新聞などを切り抜き、画用紙に張り付ける作業)	はさみとりのり、画用紙を準備すること
9	ヘルスカウンセリングの基本姿勢	講義	観察・傾聴・確認・共感を理解する	
10		講義	DVD鑑賞、男と女の脳について	男脳と女脳の違いについての研究最先端
11	カウンセリングの技法と展開手順	講義	情動変化にも対応し効果的な質問をし、話をまとめ確認し解決方法を見つけ出す方法とは	
12		講義	DVD鑑賞、男と女の違い	
13	焦点をあててついていく	講義	相手に注意を向け、言っていることにしっかりついていく技法を学ぶ	
14		講義	KJ法によるストレス分析	グループ別にストレス抽出と対応策
15	効果的な質問	講義	開かれた質問と閉じた質問を理解する	
16		講義	九分割法とスクイッグル	色鉛筆を準備すること
17	感情の反映	講義	複雑な感情を理解し、姿勢、声の調子、態度から人の情動についての情報を得る	
18		講義	風景構成法	画用紙とクレヨンを準備すること
19	技法の統合	講義	開かれた質問、最小限の励まし、感情と内容の反映などの技法を統合する	
20	まとめと試験	講義	講義に対する理解度を評価する	

分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
専門基礎分野	栄養の代謝と働きB	1	15	90分 × 10コマ	講義・演習
開講年度および時期	担当教員	評価方法		教科書及び参考資料他	
2019年度 前期・後期	下畑 隆明	1) 確認テスト結果(40点) 2) 科目終了時の学科試験(60点)		栄養と代謝(医歯薬出版)	
一般目標	栄養と代謝について生化学の基礎的知識の学習並びに、歯科衛生士としての総合的な栄養学を修得する。				
到達目標	①生体の構成要素を説明できる。 ②生体における化学反応を説明できる。 ③エネルギーの代謝について説明できる。 ④物質の代謝について説明できる。 ⑤口腔に関する生化学が説明できる。				
授業計画					
回	単元	形態	内容	備考	
1	1: 生体の構成要素 2: 生体における化学反応 1) 消化と吸収 2) 酸素の運搬と二酸化炭素の排出	講義	栄養素の消化と吸収、酵素の役割、エネルギー代謝とATP		
2	3: 糖質と脂質の代謝 2) 糖質の 3) 脂質の代謝エネルギーの生成	講義	代謝の全体像、糖質の代謝、脂質の代謝		
3	4: タンパク質とアミノ酸の代謝 1) タンパク質の加水分解 2) アミノ酸の代謝分解	講義			
4	1: 歯と歯周組織の生化学 1) 歯と歯周組織 2) 結合組織 3) 歯	講義	結合組織の組成と機能、歯の組成		
5	2: 硬組織の生化学 1) 血清中のカルシウムとリン酸 2) 石灰化の仕組み	講義	石灰化の特徴		
6	2: 硬組織の生化学 3) 骨の生成と吸収 4) 骨の脱灰と再石灰化	講義	骨芽細胞と破骨細胞、血清カルシウム調節ホルモン	小テスト	
7	3: 唾液の生化学 1) 唾液の組成と機能	講義	唾液の組成と機能		
8	3: 唾液の生化学 1) 唾液の組成と機能	講義	低分子量成分		
9	4: プラークの生化学 1) プラークの生物活性 2) プラークによる齲蝕発症機構	講義	プラークの種類、プラークの形成、多因子性疾患としての齲蝕		
10	4: プラークの生化学 3) プラークによる口臭発症機構 4) プラークによる歯周疾患発症機構	講義	プラークによる口臭発症機構、細菌活性		

分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
専門基礎分野	口腔生理学B	1	15	90分 × 10コマ	講義・演習
開講年度および時期	担当教員	評価方法			教科書及び参考資料他
2019年度 前期・後期	馬場 麻人	1) 確認テスト結果(20点) 2) 科目終了時の学科試験(80点)			解剖学・組織発生学・生理学(医歯薬出版) 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学(医歯薬出版)
一般目標	口腔機能向上支援ができる歯科衛生士になるために、口腔生理学の基礎知識を修得する。				
到達目標	①口腔生理学の基礎知識を確認する。 ②摂食・咀嚼・嚥下のしくみが説明できる。 ③循環のしくみが背う英できる。				
授業計画					
回	単元	形態	内容	備考	
1	細胞について	講義	細胞の構造と機能	小テスト形式で問題演習を行う。各回、問題解法、解説を行う。解説を記録するためのノート等を用意する事が望ましい。(図が描けるように)	
2	細胞について	講義	筋の構造と機能		
3	血液について	講義	血液の細胞・血液型		
4	神経について	講義	神経のはたらき・活動電位・歯の感覚		
5	神経について	講義	自律神経		
6	神経について	講義	感覚器・味覚(唾液を含む)		
7	神経について	講義	中枢神経		
8	口腔について	講義	摂食・咀嚼・嚥下		
9	口腔について	講義	咀嚼筋と顎反射		
10	循環について	講義	血液循環・泌尿器のはたらき		

分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
専門基礎分野	薬理学・歯科薬理学B	1	15	90分 × 10コマ	講義・演習
開講年度および時期	担当教員および実務経験	評価方法		教科書及び参考資料他	
2019年度 前期・後期	河野 景子 薬剤師として大手製薬会社勤務の他、歯科医師の臨床経験のある教員が、臨床実習でふれることの多かった各種疾病に対する薬物療法や歯科でよく用いられる薬について指導する科目である。	1) 確認テスト結果(20点) 2) 科目終了時の学科試験(80点)		薬理学(医歯薬出版)	
一般目標	各種疾病に対する薬物治療の取扱いができる歯科衛生士になるために、歯科診療に関連する薬物の知識を修得する。				
到達目標	①各種疾患に使用する薬物の作用を学ぶ。 ②薬物の取扱い法を説明できる。 ③歯科治療時に使用される薬物の効果が説明できる。				
授業計画					
回	単元	形態	内容	備考	
1	歯科でよく用いられる薬(1)	講義	抗菌薬		
2	歯科でよく用いられる薬(2)	講義	鎮痛薬・抗炎症薬		
3	歯科でよく用いられる薬(3)	講義	局所麻酔薬		
4	疾病と薬物治療(1)	講義	薬物相互作用と副作用		
5	疾病と薬物治療(2)	講義	かぜ・インフルエンザと薬物治療		
6	疾病と薬物治療(3)	講義	かぜ・インフルエンザと薬物治療		
7	薬理学まとめ(1)	講義	法律による薬物の分類、医薬品の保存、薬の用量による作用の変化、薬の作用機序		
8	薬理学まとめ(2)	講義	吸収・分布・代謝・排泄、薬の投与経路と剤形、薬の連用・併用による効果、薬物感受性		
9	薬理学まとめ(3)	講義	中枢神経に作用する薬物、末梢神経に作用する薬物、止血薬、抗炎症薬		
10	薬理学まとめ(4)	講義	抗菌薬、消毒薬、歯内療法に用いる薬、齲蝕予防に用いる薬		

分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
専門基礎分野	微生物学・口腔微生物学B	1	15	90分 × 10コマ	講義・演習
開講年度および時期	担当教員および実務経験		評価方法		教科書及び参考資料他
2019年度  前期・後期	廣島 佑香 担当1～6回  歯周病と糖尿病に関する研究者であり、歯科医師としての臨床経験のある教員が、歯科臨床と関連の深い微生物と全身の関係について指導する科目である。	1) 科目終了時の学科試験(100点)		微生物学(医歯薬出版)	
村上 圭史 担当7～10回	緑膿菌、抗菌薬抵抗性、バイオフィルムの研究者であり、歯科医師の臨床経験のある教員が、歯科臨床と関連の深い微生物と全身の関係について指導する科目である。				
一般目標	感染対策のできる歯科衛生士になるために、微生物の病原性、全身への影響についての知識を修得する。				
到達目標	①細菌、真菌、ウイルス及び寄生虫のヒトに対する感染成立機序とこれらの微生物がヒトに対して示す病原性を説明できる。 ②う蝕の病因と病態を説明できる。 ③歯周疾患の病因と病態を説明できる。 ④口腔細菌の全身への影響を説明できる。				
授業計画					
回	単元	形態	内容		備考
1	グラム陽性菌	講義	ブドウ球菌、レンサ球菌、グラム陽性桿菌		
2	グラム陰性菌	講義	グラム陰性球菌、シュードモナス等腸内細菌、嫌気性桿菌		
3	スピロヘータ・マイコプラズマ	講義	種類、増殖、病原性、治療法		
4	リケッチア・クラミジア	講義	種類、増殖、病原性、治療法		
5	真菌	講義	種類、構造、増殖、病原性、化学療法		
6	原虫	講義	種類、構造、増殖、病原性、化学療法		
7	ウイルス	講義	種類、構造、増殖、化学療法		
8	う蝕	講義	う蝕の病因論、う蝕と免疫、う蝕に継発する感染症、治療法、予防法		
9	歯周病	講義	歯周病とは、原因菌、組織破壊メカニズム、治療法、予防法		
10	口腔細菌と全身	講義	口腔細菌による口腔領域以外の感染症		

分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
専門基礎分野	衛生行政・社会福祉	2	30	90分 × 20コマ	講義・演習
開講年度および時期	担当教員および実務経験	評価方法		教科書及び参考資料他	
2019年度  前期・後期	藪内 さつき 担当1~4回	1)科目終了時の学科試験(100点)		歯科衛生士と法律・制度(医歯薬出版) 参考資料:厚労省資料・新聞記事等	
	社会福祉士、介護支援専門員、精神保健福祉士で、福祉事務所の相談員の経験がある教員が、社会福祉を必要とする側と支える立場の両方を理解できるよう指導する。				
北 詰 典 子 担当5~16回	歯科衛生士、社会福祉士、精神保健福祉士の資格を有し、妊婦から終末期にいたるさまざまな地域住民の口腔健康支援を実施している教員が、健康に関わる社会制度を指導する。				
船 奥 律 子 担当17~20回	歯科衛生士、社会福祉士の資格をもち、地域住民の口腔健康支援を実施している教員が、健康に関わる社会制度や各法令に基づく歯科衛生士の業務を指導する。				
一般目標	日本の保健・医療・福祉制度と医事法制を理解し、歯科衛生のあり方を考える態度を養うために、歯科衛生士に必要な法律・制度に関する基本的知識を修得する。				
到達目標	①日本の衛生行政と社会保障の体系を説明できる。 ②歯科衛生士の業務と法令および法令遵守について説明できる。 ③歯科衛生士として職場で知らなければならない教養としての社会福祉・社会保険の知識を説明できる。 ④医療・福祉の職種との関連について説明できる。				
授業計画					
回	単元	形態	内 容	備 考	
1	衛生行政・社会福祉の意義	講義	なぜ歯科衛生士が衛生行政・社会福祉を学ぶのか事例をとおして考える	1~4回 藪内さつき	
2		講義			
3	障害者の福祉制度と法規	講義	障害者と関わる福祉制度や法律を事例をとおして学ぶ		
4		講義			
5	1章 歯科衛生士と法律	講義	歯科衛生士業務・身分・責任等についての法律	5~16回 北詰典子	
6		講義	実務的な歯科衛生士の業務		
7	歯科医療従事者の法律	講義	歯科医療従事者の現況		
8	医療法	講義	医療法の成り立ちと目的		
9	2章 医療関係職種	講義	歯科医療とかかわる医療関係者(看護師・准看護師・臨床検査技師・言語聴覚士)		
10	医療関係職種とその法律	講義	各職種にかかわる法律		
11	3章 その他の関係法規	講義	薬事に関する法規		
12		講義	地域保健に関連する法規、その他の衛生法規		
13	4章 社会保障	講義	社会保障制度と医療保険		
14		講義	介護保険		
15	4章 社会保障	講義	社会福祉行政		
16		講義	社会福祉制度		
17	5章 医療の動向	講義	国民の健康状態と受領状況	17~20回 船奥律子	
18		講義	医療上今日の動向		
19	まとめ	講義	全体的な振り返り		
20		講義			

分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
専門分野	死生論	1	15	90分 × 10コマ	講義・演習
開講年度および時期	担当教員および実務経験	評価方法		教科書及び参考資料他	
2019年度 前期・後期	中條 信義 歯科医師としての臨床経験、臨床心理士としてのさまざまな症例に対応している経験のある教員が、死と向き合うことにより、改めて人生の歩き方を共に考えていく科目である。	レポート、講義中のワークや受講態度ならびに出席状況を点数化し、総合評価する。(100点)		新しい学問分野でもあり教科書は指定しない。必要に応じてDVD、プリント、参考資料を適宜紹介する。	
一般目標	死と向き合うことにより、改めて”生きている有難さとその価値”を自分のものとして受け止め、人生の歩き方を考える。				
到達目標	①現実的な死を学ぶ。 ②死生観はさまざまであることを知る。 ③緩和医療を説明できる。 ④死を迎える患者・家族の喪失感を理解する。 ⑤よりよく生きることについてを表現できる。				
授業計画					
回	単元	形態	内容	備考	
1	死生学とは何か	講義	死生学の概要		
2	医学的な死とは	講義	心臓死と脳死の問題点		
3	自殺や犯罪死の現状と今後の課題	講義	自殺予防の観点から考える		
4	死生観について	講義	歴史的変遷、西洋人と東洋人の比較など		
5	自己決定権と死	講義	尊厳死、安楽死について		
6	末期患者における緩和医療とは	講義	がん患者との付き合い方など		
7	死を迎える患者・家族への支援	講義	遺族の喪失体験とグリーフ・ワーク		
8	「生」をめぐる社会問題	講義	「生と死」を生きてる本人からの発信		
9	ライフサイクルから「生」を考える	講義	「老い」と死を中心に考える		
10	「よりよく生きる」とは	講義	「生きがい」とは何か? 「幸せ」とは何か? と問う		



分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
専門分野	歯周治療学B	1	30	90分 × 20コマ	講義・演習
開講年度および時期	担当教員および実務経験	評価方法		教科書及び参考資料他	
2019年度  前期・後期	橋本千奈美 歯周疾患の治療、予防を積極的に行う歯科診療所で勤務し、高度なスケーリングテクニックをもつ教員が、歯周疾患の知識、歯周基本治療の器具操作法、口腔内写真撮影法を指導する科目である。	1) 提出物の評価(20) 2) 実技テスト結果(30) 3) 科目終了時の学科試験(50点)		歯周病学(医歯薬出版)  歯科予防処置論・歯科保健指導論(医歯薬出版)	
一般目標	歯周疾患について知識を深め、歯周基本治療を行う際に必要な器具の操作法、歯周組織の変化についてさらなる知識を修得する。				
到達目標	①歯周治療の流れと歯科衛生士の役割を概説できる。 ②歯周組織検査の方法と留意点を説明できる。 ③リスクファクターに対する指導について説明できる。 ④SRP前の観察と留意点について説明できる。 ⑤SRPの基本を説明できる。 ⑥マニキンを使ってSRPの基本操作ができる。 ⑦歯周外科治療後の治癒と付着様式を説明できる。 ⑧インプラント周囲粘膜炎・インプラント周囲炎について説明できる。				
授業計画					
回	単元	形態	内容	備考	
1	歯周治療の概要	講義	歯周組織の構造 歯肉の性状と歯周治療後の変化 歯肉と歯の付着様式とアタッチメント		
2	歯周治療の概要	講義	歯周組織の構造 歯肉の性状と歯周治療後の変化 歯肉と歯の付着様式とアタッチメント		
3	シャープニング(実習)	演習	各種キュレットの特徴と用途 グレーシーキュレットのシャープニング(実習)	【準備物】グレーシーキュレット、テストスティック、シャープニングストーン	
4	口腔内写真撮影の基礎知識	演習	規格写真としての撮影方法を理解する		
5	相互実習① 口腔内写真撮影(5枚法)	演習	口腔内写真(5枚法)撮影実習、顎模型へのマニキュア塗布(SRP実習準備)	【準備物】白衣、顎模型、パソコン、USBメモリー、グレーシーキュレット、テストスティック、シャープニングストーン	
6	相互実習① 口腔内写真撮影(5枚法)	演習	口腔内写真(5枚法)撮影実習 顎模型へのマニキュア塗布(SRP実習準備)	★実習記録提出	
7	相互実習② 口腔内写真撮影(5枚法)	演習	口腔内写真(5枚法)撮影実習、撮影データの取り込み	【準備物】白衣、顎模型、パソコン、USBメモリー、グレーシーキュレット、テストスティック、シャープニングストーン	
8	相互実習② 口腔内写真撮影(5枚法)	演習	口腔内写真(5枚法)撮影実習、撮影データの取り込み	★実習記録提出	
9	口腔内写真・データ整理	演習	撮影データの取り込み・編集・印刷 撮影画像の振り返り	【準備物】パソコン、USBメモリー、白衣、顎模型、グレーシーキュレット、テストスティック、シャープニングストーン	
10	ルートプレーニングの基礎知識	演習	SRP開始のタイミングについて、SRPの基本操作(歯肉縁下への挿入とス		
11	ルートプレーニング(実習)	演習	上下顎前歯部のルートプレーニング	【準備物】白衣、顎模型、グレーシーキュレットテストスティック、シャープニングストーンファントム	
12	ルートプレーニング(実習)	演習	上下顎前歯部のルートプレーニング		
13	ルートプレーニング(実習)	演習	上下顎臼歯部のルートプレーニング	【準備物】白衣、顎模型、グレーシーキュレットテストスティック、シャープニングストーンファントム	
14	ルートプレーニング(実習)	演習	歯周基本治療後のメンテナンスについて		
15	★実技テスト歯周治療と歯周組織の変化	演習	シャープニング、ルートプレーニングの実技試験	【準備物】白衣、顎模型、ファントム、グレーシーキュレット、テスト	

16	★実技テスト歯周治療と歯周組織の変化	演習	歯周外科治療後の治癒と付着様式	ティック、シャープニングストーン ★顎模型・キュレット提出
17	歯周病のリスクマネジメント	演習	歯周病原細菌、全身疾患、咬合力について	
18	歯周病のリスクマネジメント	演習	歯周病原細菌、全身疾患、咬合力について	
19	インプラントのメンテナンス	講義	インプラント周囲組織の構造	
20	インプラントのメンテナンス	講義	インプラント周囲粘膜炎・インプラント周囲炎について	

分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
専門分野	歯科補綴学B	1	15	90分 × 10コマ	講義・演習
開講年度および時期	1	評価方法		教科書及び参考資料他	
2019年度  前期・後期	多田悦尚	1)科目終了時の学科試験(100点)		高齢者歯科(医歯薬出版)	
	言語聴覚士として病院で摂食・嚥下リハビリテーションを実施している教員が、口腔機能を回復するために必要な摂食・嚥下のしくみやその評価、機能訓練の実際を指導する科目である。				
一般目標	障害や疾病により、衰えた口腔の機能を回復する支援ができるようになるために、摂食・嚥下のしくみやその評価、機能訓練の実際を学ぶ。				
到達目標	①摂食嚥下障害の原因と症状を説明できる。 ②摂食嚥下リハビリテーションを行うためのスクリーニングテストを説明できる。 ③嚥下訓練の方法を説明できる。 ④摂食嚥下の段階に応じた食事支援の留意点を理解できる。 ⑤高齢者の誤嚥性肺炎の原因と口腔健康管理を説明できる。 ⑥チーム医療に関わる関連職種と歯科衛生士との連携のあり方を説明できる。				
授業計画					
回	単元	形態	内容		備考
1	言語聴覚士とは 摂食・嚥下のメカニズム	講義	言語聴覚士 STについて ① 摂食・嚥下障害の定義 ② 摂食・嚥下障害の解剖学的知識 ③ 摂食・嚥下のメカニズムとその障害像		Speech-Language-Hearing Therapists,ST
2	摂食・嚥下障害の原因疾患	講義	① 脳血管疾患 ② 神経・筋疾患 ③ 器質的疾患		
3	摂食・嚥下障害の検査・評価	講義	① 基礎的な摂食・嚥下評価とスクリーニング検査 ② 家族や本人への問診 ③ 摂食・嚥下使用外の精密検査 ④ 検査・評価のまとめ		水飲みテスト、RSST、フードテスト
4	摂食・嚥下障害のリハビリテーションと摂食機能療法	講義	① 摂食機能療法とは ② 間接訓練・直接方法 ③ 嚥下食 ④ リハビリテーションのゴール設定と栄養摂取方法		NST
5	リハビリテーションの実際	講義	① 初期評価 ② リハビリテーション実施上のリスク		
6	脳卒中後の後遺症と 高齢者に多いコミュニケーション上の問題 実技・症例	講義	① 高次機能障害 ② 難聴 ① スクリーニング検査の実際 ② 症例		
7	摂食・嚥下困難な方への 口腔ケア(手技)	講義	① 口腔ケア、吸引についての基礎知識		
8	摂食・嚥下困難な方への 口腔ケア(手技)	演習	② 歯科衛生士が行う口腔ケアの手技 ③ 吸引方法(模型及び相互実習)		口腔粘膜の清掃 口腔内吸引、鼻腔内吸引、気管吸引
9	摂食・嚥下困難な方への 口腔ケア(症例検討)	演習	① 症例検討 1) 歯科衛生アセスメント 2) 歯科衛生診断 3) 歯科衛生計画立案 4) 歯科衛生介入 5) 歯科衛生評価 ② 発表		
10	摂食・嚥下困難な方への 口腔ケア(症例検討)	演習	② 発表		

分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
専門分野	歯科予防処置論Ⅲ	2	60	90分 × 40コマ	講義・演習
開講年度および時期	担当教員および実務経験	評価方法		教科書及び参考資料他	
2019年度  前期・後期	船奥律子  「歯科衛生過程」に関する書籍を執筆している教員が、対象者の情報を収集し、問題と原因を判断、計画立案、介入、評価する一連の流れを講義と演習で指導する科目である。	1) 提出物・確認テストの評価(10) 2) 実技テスト結果(30) 3) 科目終了時の学科試験(60)		歯科予防処置論・歯科保健指導論(医歯薬出版)  参考資料:よくわかる歯科衛生過程(医歯薬出版)	
一般目標	対象者の異なるニーズに応えることのできる歯科衛生士になるために、一人ひとりに必要な歯科予防処置を考える能力を身につける。そのために歯科衛生過程を用いて歯科予防処置を統括的に計画実施する臨床応用を学ぶ。また、卒業後の臨床応用に発展することができるよう、3年間の知識、技術をまとめる。				
到達目標	①歯科予防処置を実施する際に把握すべき対象者の情報を説明できる。 ②対象者のう蝕・歯周病リスクの評価方法を説明できる ③対象者の情報を分析し、歯科衛生計画を立案できる。 ④対象者の歯科衛生介入ができる。 ⑤各々の歯科予防処置法を説明できる。				
授業計画					
回	単元	形態	内容	備考	
1	口腔保健管理に歯科衛生過程	講義	歯科衛生過程の基礎知識		
2	口腔保健管理に歯科衛生過程	講義	症例検討		
3	歯科衛生過程グループワーク①	講義	歯科衛生アセスメント(情報収集・情報の整理・分類)	症例の資料、ワークシート	
4	歯科衛生過程グループワーク①	講義	歯科衛生アセスメント(情報収集・情報の整理・分類)		
5	歯科衛生過程グループワーク②	講義	歯科衛生アセスメント(解釈・分析)		
6	歯科衛生過程グループワーク②	講義	歯科衛生アセスメント(解釈・分析)		
7	歯科衛生過程グループワーク③	講義	歯科衛生診断	★小テスト: 歯科衛生過程	
8	歯科衛生過程グループワーク③	講義	歯科衛生計画		
9	歯科衛生過程グループワーク④	講義	歯科衛生介入		
10	歯科衛生過程グループワーク④	講義	歯科衛生評価		
11	歯科衛生アセスメント	演習	自己紹介、健康調査票の確認、口腔内状況の把握	健康調査票、唾液分泌量、RDテスト、デントカルトSM、デントカルトLB、口腔内観察他	
12	歯科衛生アセスメント	演習	唾液検査等の情報収集、計画、介入		
13	1年生への歯科衛生過程	演習	1年生の歯科健康診断票からの情報収集		
14	1年生への歯科衛生過程	演習	1年生に行なう1回目の指導の準備		
15	1年生への歯科衛生過程(実習①)	演習	自己紹介、問診票の確認、口腔内状況の把握、	★歯科衛生過程実施、記録を評価	
16	1年生への歯科衛生過程(実習①)	演習	唾液検査等の情報収集、計画、介入	口腔内状況、う蝕や歯周病の検査	
17	1年生への歯科衛生過程(実習②)	演習	評価、再計画、介入、記録	★歯科衛生過程実施、記録を評価	

18	1年生への歯科衛生過程(実習②)	演習	評価、再計画、介入、記録	
19	1年生への歯科衛生過程	演習	まとめ	★小テスト: 歯科衛生過程
20	1年生への歯科衛生過程	演習	まとめ	
21	歯科予防処置のまとめ①	講義	・ライフステージごとの歯科疾患と全身疾患の関連	
22	歯科予防処置のまとめ①	講義	・歯周病と全身疾患の関連	
23	歯科予防処置のまとめ②	講義	・歯・歯周組織の検査	★前回講義復習の小テストを実施評価する
24	歯科予防処置のまとめ②	講義	(プロービング、歯肉の炎症の評価、動揺度検査)	
25	歯科予防処置のまとめ③	講義	・歯・歯周組織の検査	★前回講義復習の小テストを実施評価する
26	歯科予防処置のまとめ③	講義	(プラーク・歯石の評価、口腔内写真、エックス線写真)	
27	歯科予防処置のまとめ④	講義	・スケーリング・ルートプレーニング	★前回講義復習の小テストを実施評価する
28	歯科予防処置のまとめ④	講義	・歯面清掃・研磨、メンテナンス	
29	歯科予防処置のまとめ⑤	講義	・う蝕と全身疾患の関連	★前回講義復習の小テストを実施評価する
30	歯科予防処置のまとめ⑤	講義	・う蝕と全身疾患の関連	
31	歯科予防処置のまとめ⑥	講義	・う蝕のリスク評価	★前回講義復習の小テストを実施評価する
32	歯科予防処置のまとめ⑥	講義	・う蝕予防処置計画	
33	歯科予防処置のまとめ⑦	講義	・フッ化物歯面塗布	★前回講義復習の小テストを実施評価する
34	歯科予防処置のまとめ⑦	講義	・フッ化物歯面塗布	
35	歯科予防処置のまとめ⑧	講義	・フッ化物洗口	★前回講義復習の小テストを実施評価する
36	歯科予防処置のまとめ⑧	講義	・フッ化物洗口	
37	歯科予防処置のまとめ⑨	講義	・フッ化物配合歯磨剤	★前回講義復習の小テストを実施評価する
38	歯科予防処置のまとめ⑨	講義	・フッ化物配合歯磨剤	
39	歯科予防処置のまとめ⑩	講義	・小窩裂溝填塞法	★前回講義復習の小テストを実施評価する
40	歯科予防処置のまとめ⑩	講義	・小窩裂溝填塞法	

分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
専門分野	メンテナンスシステム論	2	30	90分 × 20コマ	講義・演習
開講年度および時期	担当教員および実務経験		評価方法		教科書及び参考資料他
2019年度 前期・後期	川原 博 雄 担当1~6回 この科目はオムニバス形式で構成される。患者の口腔健康管理を継続する歯科医師が、カリエスリスクとペリオリスクのコントロールに歯科衛生士の介入がいかに重要であるかを指導する科目である。	1) 提出物の評価(100点)		歯科予防処置論・歯科保健指導論(医歯薬出版) 歯周病学(医歯薬出版) 高齢者歯科(医歯薬出版)	
渡邊 正 知	担当7・8回	小児の定期健診を継続的に実施している小児歯科診療所を開設する歯科医師の教員が、小児の口腔健康管理や保護者への支援法、歯科衛生士の役割を指導する科目である。			
富永 高 生	担当9・10回	メンテナンス業務や口腔健康管理を継続的に実施している歯科医師である教員が、口の健康から呼吸、体の健康につなげる健康支援法を指導する科目である。			
橋本 千奈美	担当11・12、15・16回	病院入院患者への周術期口腔健康管理を実施している歯科衛生士の教員が、入院患者の全身状態が変化する中での口腔健康管理と歯周病患者への実践的メンテナンスを指導する科目である。			
宮本 雅 司	担当13・14回	メンテナンス業務や口腔健康管理を継続的に実施している歯科医師である教員が、専門分野の義歯装着者の咬合、安定、義歯の構造と種類、管理方法、メンテナンスなどを指導する科目である。			
打樋 美 恵	担当17・18回	歯科診療所に勤務する歯科衛生士の教員が、学生が卒業後多く体験する歯周病患者の歯科治療からメンテナンスにいたる事例の流れと結果を考察し、歯科衛生業務の核心に触れる科目である。			
増田 洋 子	担当19・20回	高齢者への健康教育を実施している歯科衛生士教員が、高齢者の健康維持と介護予防、フレイルとオーラルフレイルについて指導する科目である。			
一般目標	口腔衛生向上に貢献できる歯科衛生士になるために、専門的口腔保健管理の意義及びその技術を修得する。卒業後に自らすんで歯科疾患の予防に取り組めるよう臨床に即した実践的な学びを深める。				
到達目標	①定期的に継続して行う口腔保健管理の意義を説明できる。 ②口腔健康状態を維持するための歯科衛生士の役割りが概説できる。 ③対象者が必要とする健康支援を述べることができる。				
授業計画					
回	単元	形態	内 容		備 考
1	歯科医療の価値	講義	本来あるべき歯科医療の価値		川原博雄(14:00~17:00)
2		講義	歯科衛生士の役割		川原博雄(14:00~17:00)
3	カリエロジー	講義	カリエスリスク		川原博雄(14:00~17:00)
4		講義	リスクアセスメントとリスクコントロール		川原博雄(14:00~17:00)
5	ペリオドントロジー	講義	ペリオリスク		川原博雄(14:00~17:00)
6		講義	リスクアセスメントとリスクコントロール		川原博雄(14:00~17:00)
7	メンテナンスの実際①	講義	小児へのメンテナンス業務		渡邊正知
8		講義	小児へのメンテナンス業務		渡邊正知
9	メンテナンスの実際②	講義	口の健康から呼吸、体の健康につなげる		富永高生
10		講義	あいうべ体操		富永高生
11	メンテナンスの実際③	講義	周術期の患者への歯科衛生業務		橋本千奈美
12		講義	周術期の患者への歯科衛生業務		橋本千奈美
13	メンテナンスの実際④	講義	義歯装着者へのメンテナンス		宮本雅司
14		講義	義歯装着者へのメンテナンス		宮本雅司
15	メンテナンスの実際⑤	講義	歯周病患者へのメンテナンス		橋本千奈美
16		講義	歯周病患者へのメンテナンス		橋本千奈美
17	メンテナンスの実際⑥	講義	歯周病患者の症例検討		打樋美恵
18		講義	診療およびメンテナンスの流れ		打樋美恵
19	メンテナンスの実際⑦	講義	高齢者の健康維持と介護予防		増田洋子
20		講義	フレイルとオーラルフレイルについて		増田洋子

分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
専門分野	歯科保健指導論Ⅲ	2	60	90分 × 40コマ	講義・演習
開講年度および時期	担当教員および実務経験	評価方法		教科書及び参考資料他	
2019年度 前期・後期	増田 洋子	1) 提出物の評価(10)		歯科予防処置論・歯科保健指導論(医歯薬出版)	
	小中学校の児童生徒や高齢者への健康教育を実施している教員が、各科目の垣根を越えて統合的に生涯を通じた歯科保健指導と歯科衛生士のあり方を共に考える科目である。	2) 実技テスト結果(30) 3) 科目終了時の学科試験(60)		高齢者歯科(医歯薬出版)	
一般目標	生涯を通じた歯科保健指導と歯科衛生士の役割のあり方を学ぶ。2学年の臨床・臨地実習での気づきや学びを深く探求し、基礎知識と臨床での応用展開をつなげることを目的とする。				
到達目標	①歯科保健指導における歯科衛生士の役割を説明できる。 ②歯科保健に関わる健康施策の法的根拠を説明できる。 ④歯科保健指導のために必要なアセスメントができる。 ③保健行動と行動変容の手法を活用できる。 ⑤各ライフステージ別の歯科保健指導ができる。 ⑥対象別の健康教育の計画立案ができる。 ⑦対象者を全人的、包括的に捉え口腔から全身の健康を支援する視点を持つことができる。 ⑧歯科予防処置、歯科診療補助、歯科保健指導を統合的に捉え、歯科衛生業務を行うことができる。				
卒業後の臨床応用に					
回	単元	形態	内 容		備 考
1	小学校リハーサルに参加	演習	3年生の小学校歯科保健指導リハーサルに参加		自分たちの経験をもとに気づきやアドバイスをレポートにまとめる
2	小学校リハーサルに参加	演習	3年生の小学校歯科保健指導リハーサルに参加		★レポート提出
3	メンテナンスに関する歯科衛生業務	講義	症例検討、歯科衛生士業務をレポートにまとめる		
4	メンテナンスに関する歯科衛生業務	講義	症例検討、歯科衛生士業務をレポートにまとめる		★レポート提出
5	歯科保健指導の基礎	講義	歯科保健指導の法的位置づけ		
6		講義	健康の概念、予防の概念		
7	歯科保健指導の基礎知識	講義	歯科疾患の現状		歯科疾患実態調査
8		講義	歯科疾患の現状		歯科疾患実態調査
9		講義	行動変容の要素とそのステップ		
10		講義	食生活指導の基礎		
11	歯科衛生アセスメントのための情報収集	講義	口腔内の情報収集		
12		講義	口腔内の情報収集		
13		講義	分析のためのデータ		
14		講義	分析のためのデータ		
15	歯科衛生介入のための歯科保健指導	講義	口腔清掃方法		
16		演習	口腔清掃方法		
17		演習	口腔清掃方法		★実技試験
18		演習	口腔清掃方法		★実技試験
19	ライフステージにおける歯科衛生介入	講義	対象別の指導法、妊産婦		母子手帳
20		講義	対象別の指導法、妊産婦		母子手帳
21		講義	対象別の指導法、乳幼児		
22		講義	対象別の指導法、乳幼児		
23		講義	対象別の指導法、学齢期		
24		講義	対象別の指導法、学齢期		
25		講義	対象別の指導法、成人期		
26		講義	対象別の指導法、成人期		
27		講義	対象別の指導法、高齢者		
28		講義	対象別の指導法、高齢者		

29		講義	・口腔機能の評価と訓練	高齢者歯科(医歯薬出版)
30		講義	・口腔機能の評価と訓練	高齢者歯科(医歯薬出版)
31		演習	・口腔機能の評価と訓練	★実技試験
32		演習	・口腔機能の評価と訓練	★実技試験
33	地域歯科保健活動	講義	健康教育の進め方	
34		講義	健康教育の方法	
35	歯科保健指導まとめ	講義	状況設定問題形式	
36	歯科保健指導まとめ	講義	状況設定問題形式	
37	歯科保健指導まとめ	講義	状況設定問題形式	
38	歯科保健指導まとめ	講義	状況設定問題形式	
39	歯科保健指導まとめ	講義	状況設定問題形式	
40	歯科保健指導まとめ	講義	状況設定問題形式	



分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
専門分野	歯科診療補助論Ⅲ	3	90	90分 × 60コマ	講義・演習
開講年度および時期	担当教員および実務経験		評価方法		教科書及び参考資料他
2019年度 前期・後期	酒井みね 歯科衛生士としての臨床経験がある教員が、全身疾患を有する患者の歯科診療補助、卒業後要求の高い歯科衛生業務と専門的な歯科診療に応じた歯科診療補助を指導する科目である。		1) 確認テスト・提出物の評価(10点) 2) 科目終了時の学科試験(60点) 3) 実技試験結果(30点)		歯科診療補助論(医歯薬出版)
藤中恵子	担当25・26回	歯科医師として大学病院、歯科診療所での臨床経験があり、現在は訪問歯科診療で活躍する教員が、訪問歯科診療の流れや準備物等、歯科衛生士が行う実践的な業務を指導する科目である。			
井内孝次	担当33・34回	歯科技工所を経営する歯科技工士の教員が、完成度の高いスタディモデルの作成を指導する科目である。			
丸山葉鼓	担当55～60回	フラワーデザイン、アロマテラピー、テーブルコーディネーターのスクールの講師である教員が、患者さんが心地よくリラックスして歯科診療を受けるための環境作りを指導する科目である。			
一般目標	さまざまなライフステージにおける歯科医療に対応するために、専門的な歯科医療の補助に関する基礎的知識、技術および態度を修得する。				
到達目標	1) 歯科診療補助における歯科衛生士の役割を列挙できる。 2) 全身疾患を考慮した対応ができる。 3) スタンダードプリコーションができる。 4) 主要な歯科材料・器具の取り扱いができる。 5) テンポラリークラウンの作成ができる。				
授業計画					
回	単元	形態	内容		備考
1	臨床実習に臨んでの確認	演習	挨拶、身だしなみ、服のたたみ方等		
2		演習	綿球、フローチ綿栓		
3	全身疾患を有する患者への対応	講義	循環器系疾患、脳血管疾患、呼吸器系疾患、代謝性疾患		高血圧症の患者
4		講義	肝疾患、腎疾患、血液疾患、自己免疫疾患、不定愁訴症候群		
5	全身疾患を有する患者への対応	講義	循環器系疾患、脳血管疾患、呼吸器系疾患、代謝性疾患		糖尿病の患者
6		講義	肝疾患、腎疾患、血液疾患、自己免疫疾患、不定愁訴症候群		
7	全身疾患を有する患者への対応	講義	循環器系疾患、脳血管疾患、呼吸器系疾患、代謝性疾患		妊娠中の患者
8		講義	肝疾患、腎疾患、血液疾患、自己免疫疾患、不定愁訴症候群		
9	歯周外科、口腔外科治療時の診療補助	講義	止血処置、歯周用パックの種類と取り扱い		
10		講義	鎮静及び全身麻酔		
11	臨床検査法	講義	検体検査(各種検査の目的)		
12		講義	臨床検査(口臭、味覚、金属アレルギー、唾液検査)		
13	エックス線写真時の診療補助	演習	患者誘導 フィルムの位置付け X線 防御		
14	保存治療時の診療補助	演習	コンポジットレジン		隔壁法:マトリックスバンド、リテーナー
15	補綴治療時の診療補助①	演習	補綴物の作成から装着までの診療補助業務		
16		演習			
17	補綴治療時の診療補助②	演習	テンポラリークラウンの目的・作成法②(たこ焼き法)		
18		演習			
19	補綴治療時の診療補助③	演習	テンポラリークラウンの目的・作成法②(たこ焼き法)		
20		演習	(お団子法)		
21	補綴治療時の診療補助④	演習	テンポラリークラウンの目的・作成法②(お団子法)		
22		演習			
23	補綴治療時の診療補助⑤	演習	テンポラリークラウンの作成・仮着		
24		演習			

25	訪問歯科診療補助	講義	訪問歯科診療補助の概要	25・26藤中恵子
26		演習	訪問歯科診療の流れ、他職種との連携	
27	主要歯科材料の種類、取り扱いと管理①	演習	全顎印象採得、連合印象(寒天・アルジネート、合成ゴム質印象材)	実習:アルジネート印象採得、連合印象、石膏注入
28		演習		
29	主要歯科材料の種類、取り扱いと管理②	演習	全顎印象採得、連合印象(寒天・アルジネート、合成ゴム質印象材)	実習:アルジネート印象採得、連合印象、石膏注入
30		演習		
31	主要歯科材料の種類、取り扱いと管理③	演習	全顎印象採得、連合印象(寒天・アルジネート、合成ゴム質印象材)	実習:アルジネート印象採得、連合印象、石膏注入
32		演習		
33	スタディモデル作成	演習	模型の台付け	歯科技工士 (エクセル)
34		演習		
35	歯科診療補助の一連①	演習	保存修復時の歯科診療補助	実習:アセスメント、パキューム操作等
36		演習	根管治療時の歯科診療補助	
37	歯科診療補助の一連②	演習	義歯作成、装着時の歯科診療補助	
38		演習	クラウン・ブリッジ作成時の歯科診療補助	
39	歯科診療補助の一連③	演習	外科手術時の歯科診療補助	
40		演習		
41	歯科診療補助の一連④	演習	矯正治療時の歯科診療補助	
42		演習		
43	歯科診療補助の一連⑤	演習	小児歯科治療時の歯科診療補助	
44		演習		
45	実技試験①	演習	模型 上顎右側第二大臼歯(TeC)作成	
46		演習		
47	実技試験②	演習	模型 下顎左側第一大臼歯(寒天・アルジネート連合印象採得)	
48		演習	全顎印象採得、石膏泥の注入	
49	医療安全①	講義	感染予防(スタンダードプリコーション)	
50		講義	歯科用器材の感染対策分類・	
51	医療安全②	講義	感染予防(感染事故時の対応)	
52		講義	滅菌と消毒の方法 医療廃棄物の取り扱い	
53	最新 微生物学 情報	講義	歯周病検査(一般検査、画像診断、細菌検査)	
54		講義		
55	心地よい診療室づくり①	演習	アロマセラピーとは、フレッシュアロマオイル	演習(丸山先生)
56		演習	香りを用いて(ドライフラワー、ポプリ)	
57	心地よい診療室づくり②	演習	季節に合わせたディスプレイ	演習:テーブルコーディネート
58		演習	オーナメント製作	テーブルマナー、リース製作
59	心地よい診療室づくり③	演習	フラワーアレンジメントの基礎、基本型ラウンドスタイル	演習:生花を使用しアレンジメント
60		演習	ラウンドスタイルの応用	演習:葉物(フオリッジ)を使用しアレンジメント

分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
選択分野	臨床・臨地実習学習法Ⅲ	1	30	90分 × 20コマ	講義・演習
開講年度および時期	担当教員および実務経験	評価方法		教科書及び参考資料他	
2019年度  前期・後期	増田 洋子  歯科診療所、小学校、地域包括支援センター等での歯科衛生業務経験がある教員が、臨床・臨地実習の事前学習、実習計画、学習法などを指導する科目である。	1) 提出物の評価(70点) 2) 報告会での発表(30点)		臨床実習ハンドブック(クインテッセンス出版) 臨地実習ハンドブック(クインテッセンス出版)	
一般目標	専門的な歯科衛生士業務を修得するために、選択したコースの実習内容を計画し、その学びを充実させることを目的とする。実習の開始前、実習中、終了後の学び方を学習し、臨床・臨地実習に対して主体性を持つ。				
到達目標	①実習の目的に合わせて実習計画を立てることができる。 ②実習に必要な資料を事前に調べまとめることができる。 ③対象者を全人的、包括的に捉え、実習記録にまとめることができる。 ④実習の学びをパワーポイントにまとめ、発表できる。 ⑤自己評価表を使い、実習の振り返りができる。				
回	単元	形態	内容		備考
1	前期・オリエンテーション	講義	臨床・臨地実習要項オリエンテーション		実習要項・臨地実習概要
2	オリエンテーション	講義	実習目的の明確化		★レポート提出
3	実習計画	演習	実習計画表作成①		
4	実習計画	演習	実習計画表作成②		★計画表提出
5	実習記録の書き方	演習	実習目的の明確化		
6	実習記録の書き方	演習	実習進行状況の把握		
7	事前学習、準備	演習	実習内容の事前学習		
8	事前学習、準備	演習	実習準備		★事前学習提出
9	実習終了後のまとめ	演習	まとめ		★実習記録提出
10	実習終了後のまとめ	演習	自己評価		★自己評価提出
11	実習報告会	演習	1・2・3年合同発表会 令和1年9月13日(金)9:00~12:00		
12	実習報告会	演習			★レポート提出
15	後期・オリエンテーション	講義	実習施設の概要		
16	実習計画	演習	実習目的の明確化		
17	実習計画	演習	実習計画作成		
18	事前学習、準備	演習	実習内容の事前学習		
17	事前学習、準備	演習	実習内容の事前学習		★計画表提出
18	事前学習、準備	演習	実習内容の事前学習		★事前学習提出
19	実習終了後のまとめ	演習	まとめ		★実習記録提出
20	実習終了後のまとめ	演習	自己評価		★自己評価提出

分野	授業科目名	単位	時間数(時間)	授業回数(1コマ90分)	授業形態
選択分野	卒業研究	1	30	90分 × 20コマ	講義・演習
開講年度および時期	担当教員および実務経験		評価方法		教科書及び参考資料他
2019年度 前期・後期	船奥 律子 担当1～20回 学術大会で研究発表の経験がある歯科衛生士教員が、学生が在学中に関心を持ち、探求したいと思ったことなどをテーマに研究をすすめ、科学的、かつ理論的に捉える思考を育てる科目である。	1) 研究計画、事前学習資料等(20点) 2) 研究過程 (40点) 3) 研究内容、発表 (40点)		歯科衛生研究の進め方論文の書き方(医歯薬出版) 卒業研究HANDO BOOK(クインテッセンス出版) わかりやすい歯科衛生士学生のための卒業研究ハンドブック(ドラッグマガジン)	
酒井 みね	担当3～20回	学術大会で研究発表の経験がある歯科衛生士教員が、学生が在学中に関心を持ち、探求したいと思ったことなどをテーマに研究をすすめ、科学的、かつ理論的に捉える思考を育てる科目である。			
増田 洋子	担当3～20回	学術大会で研究発表の経験がある歯科衛生士教員が、学生が在学中に関心を持ち、探求したいと思ったことなどをテーマに研究をすすめ、科学的、かつ理論的に捉える思考を育てる科目である。			
原 幸	担当3～20回	歯科衛生士としての臨床経験がある教員が、学生が在学中に関心をもったこと、探求したいと思ったことなどをテーマに研究をすすめ、科学的、かつ理論的に捉える思考を育てる科目である。			
一般目標	これまでの歯科衛生士教育の中で学び、関心をもったこと、不審に思ったこと、発見したこと、探求したいと思ったことなどをテーマに研究をすすめ、明らかにしたいことを科学的、かつ理論的にとらえていく思考を育てる。研究は3学年の前期・後期を通じて完成させ、後期臨床・臨地実習終了後、冬季休暇前に発表会を行う。				
到達目標	①歯科衛生業務を行ううえで、関心の分野を明確にできる。 ②研究テーマに関する情報を収集できる。 ③収集した情報を整理分析できる。 ④研究論文が作成できる。 ⑤研究論文を発表できる。				
授業計画					
回	単元	形態	内容		備考
1	研究計画	講義	オリエンテーション		研究の進め方、論文作成過程
2		講義			
3		演習	研究テーマを設定		研究テーマ、目的を明らかにする、指導教員の決定
4		演習			
5		演習	研究資料の収集		事前学習資料作成、アンケート等
6		演習			
7		演習	研究方法の選択		研究計画はパソコンで作成する
8		演習			
9		演習	研究計画を具体的に計画①		研究方法
10		演習			
11		演習	研究計画を具体的に計画②		★研究計画、事前学習資料等提出
12		演習			
13	整理分析	演習	データの集計		★研究過程評価
14		演習			
15		演習	データの資料化		
16		演習			
17	論文作成	演習			結果をグラフ化、図評価する
18		演習			
19	リハーサル	演習			
20		演習			